

# 地球に やさしい 生活



N  IMPACT MAN

### そぎ落とした結果、最後に残ったものは？

「現在の人間活動を支えるのに、地球は1個では足りない」ことをご存じですか？

WWFの「生きている地球レポート」によると、現在の人間活動を支えるためには地球は1.5個必要になっているのです。それだけ私たち人間は大きな影響を地球に与えているということです。地球は1個しかないのだから、これは異常な状態です。この状態が続くはずはありません。

1個しかない地球の上で、地球1.5個分の人間活動をしていることが、地球温暖化をはじめ、生物多様性の危機など、さまざまな環境問題を起こしているのです。よく「温暖化は問題だ」と言われますが、温暖化は症状の1つでしかありません。問題は、「1個しかない地球の上で、地球1個以上の影響を与えている私たち人間の活動」なのです。

しかし、どれだけの人がこの事実が気がついているのでしょうか。そして、その事実を知っている人のうち、どれほどの人が自分の地球に対する影響を減らそうと努力をしているでしょう。

究極の『地球にやさしい生活』をめざす主人公・コリン・ビーヴァンは、1年間という期限つきながら、自分と家族の暮らしが地球に与える影響をゼロにしようと、さまざまな取り組みをしていきます。

もちろん「地球への悪影響を少しでも減らせればいい」「小さなことでもできることからやればいい」というアプローチもありますが、彼らは自分たちが地球に与える影響を「限りなくゼロに近づける」チャレンジに臨みます。厳格にやっこそ、本当に自分にとってのものといらないものがある、という信念です。

さまざまな段階を踏み、試練をくぐりぬけながら、ごみもほとんど出さず、遠くから運ばれたものは食べず、CO2を出す乗り物には乗らず、電気も使わない生活にチャレンジしていくのです。

やってみて初めて得られる気づきがあります。やってみて初めて発見できる幸せもあります。見た目は不便な暮らしで、ほかの人たちから変人扱いされたり、笑われたり、うとんじられたりすることもあります。しかし、「無駄を省いても幸せになれるか」という彼らのチャレンジは、実は「無駄を省くことで

幸せになれる」という真実を少しずつ明らかにしてくれるのです。

“エコ生活”の浅さや深さ、簡単には答えが出ないさまざまな矛盾についてもいろいろと考えさせてくれます。

そうして、本当に大切なものは何かを問い直し、考え直し、試し直す1年間を経て、環境や地球への自分たちの与える影響をほとんど極限にまで減らした末に発見した「本当に大切なもの」とは？——それは今、3月11日の東日本大震災を経て、私たち日本人がさまざまな次元で、さまざまな思いで気づきつつあるものと、実は同じものなのではないか、と思うのです。

枝廣淳子（幸せ経済社会研究所所長）

<http://www.ishes.org>